

緑の地球

GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力



カササギの森で伸び悩んでいたナラのなかに、去年から伸びるものがでてきた。

Contents

- 夏のワーキングツアー日誌から P 2
- カササギの森に追跡調査地を設置しました P 4
- 2011 春のワーキングツアー予告 P 7

2010.11

136

認定特定非営利活動法人 緑の地球ネットワーク

『水は地球の宝物』

夏のワーキングツアー日誌から

前号で写真をご紹介した夏の黄土高原ワーキングツアー(8/21～27、28人)。やっぱり参加者の声もお届けしなくてはと、少しですが日誌から抜粋しました。短くするために多少手を加えたところがあります。

● 8月23日(月)

昨日は計画変更となり空中草原へ向かったが、車の渋滞で大変な目にあった。幸いにもすばらしい多くの高原植物の花を知ることができた。今日は昨日と違ってホテルの前の道路を見ると車の渋滞もなく、これはと期待して南天門植物園に出発したがしばらく行くとやはりトラックの渋滞に突入してしまった。大同事務所のスタッフの先導のもと、バスの運転の技術と勘、判断力と度胸でトラックの間隙を縫うように走る。この地域は鉄、マンガンの鉱山があるとかの話の最中に前方から車が向かってきた。これは大変とおもいきや向こうから避けてくれた。そのうち交差点で大渋滞。全員バスの中で待機。その渋滞の車の間を器用にリヤカー、オート三輪車、自転車で物売りが缶詰、ジュース、カップラーメン(魔法瓶準備)、水、スイカ等々商売しているのを珍しく見ていると、警察の車が来て、何人かのトラック運転手たちと話し合うようすを見てあだこうだとバスの中では講釈がはじまる。ただ時間が費やされ先のことが心配になる。どうしてもなくただ待つのみ(まな板の上の鯉)。とうとうバスより下りるものが出てきた。1人2人と続く。子どもを乗せた乗用車がUターンした。やがて動き出し、何回か停車しながら唐河に沿いながら岩壁のそそり立つ渋滞の中「取り決めのないルール」にしたがって目的地に向かった。

現地に行っただけの感想は昨年の3月に見た荒涼たる風景からすると緑がありいくらかは見やすかったが、やはりこの地を森林にするには資金と多くの人の協力および時間を要すると思う。一方こういう緑化に関わる楽しみや甲斐を感じさせる関係者を羨ましく思う。(上野直之)

● 8月24日(火)

呉城村に入ると、大規模なアンズ畑

の面積に驚いた。94年からアンズを植え、今では収入が10倍にも20倍にもなった。小学校卒業が難しかった村でも、今では大学に行けるようにもなったとのこと。最近では寒波の影響により不作が多かったそうだ。自然を相手にしている以上はいつも豊作とはいかない。そのリスクもふくめ、アンズを選択したのだろう。

昼食をとるため、2班にわかれ現地の方の家を訪れた。さまざまな肉料理に加え、ごはんや、ジャガイモ料理等どれも豪華な食事。おそらく私たちのためのおもてなしだろう。奥さんとお婆さんに、「おいしかった、お腹一杯だよ」と言うと、うれしそうに笑っていたのが印象的だった。

最後に党書記である王さんの話を聞いた。村には580世帯、人口2,000人、山の四方をGENの援助のもとアンズ畑にし、年間100元だった収入が、1,000元にもなったという。村の皆が協力してくれたという言葉が強く印象に残った。高見さんはリーダーの強い意志、想いが大切であると語った。強いリーダーシップのもと、皆がそれについて結果を出す。まさにサクセスストーリーであり、私も仕事上学びたいと思った。苦労話をもっと聞きたいと思った。次回も必ず参加しよう!と。(辻俊生)

● 8月25日(水)

3年ぶりに采涼山の松に逢いに行きました。「逢う」というと、オーバーな表現と思われるかもしれませんが、私にとっては「再会」なのです。99年、夏のワーキングツアーに参加し、遇駕山の松林でキノコを探し、その胞子液を国営苗圃にジョウロで散布しました。2000年、その松の苗を采涼山に植えました。当時の采涼山には、草もほとんどなく、荒れはてた南斜面でした。聞けば一度現地で緑化を試み、失敗した土地とのこと。2000年にはヒエンソウもまばらに咲く程度で写真を撮るのに

苦労しました。2002年に1年ぶりで訪れ、まず草の量の増加に驚きました。松の苗は成長していませんでしたが茎は太くなり葉も密生していました。その後順調に成長し、胸の高さ、背の高さ、そして今年は2.5m程になり私の背丈をはるかに越してしまいました。感動です。

私が中国の沙漠緑化に関わったのは20年程前のこと。長兄が病死し、「自分もいつか死ぬのだ、死んだあと何を残せるのか? 沙漠に森を残せたら、生きたかがある」。そのように感じて93年から中国に通いはじめました。采涼山の松たちが、私の気持ちにこたえてくれたような1日でした。毎年、私はここで遺影を撮ります。生きた証と、更新できるよるこびを感じながら…。(藤原國雄)



背丈をこえた采涼山のマツの前で

● 8月26日(木)

〈今回のワーキングツアーから〉

1) 水は地球の宝物

日本を出なければ、理解できない水の大切さを肌で感じる事ができて、反省! 空・山・川・海が水で繋がっている実感、ひとつでも欠ければ、自然が破壊されることを知る、また、回復するにはどれだけの努力が必要か思い知らされる。

2) 自然と人間は常に共存する姿

人が森を破壊しても、人はそこで生活を続け、大河の流れが枯れても、川底に作物を植える貪欲さ、水神堂では水が枯れそうなのに、のんびり魚つりをする姿、自然を相手に生きてきた人は忍耐強く、図太い。しかし自然に対するあきらめを感じました。

3) 50年前の日本が都市部では高速道路、高層住宅、高級車、茶髪、流行のファッション、音楽の現代社会があり、ゴミと吸殻、ロバ車が走り、物乞いが自然に同居する街。田舎では、土の家、

冬期カンパのお願い



大同県周土庄鎮の新拠点建設カンパ（1口2,000円）の呼びかけに、11月4日現在100名・団体から2,440,246円のご協力をいただきました。ありがとうございます。400万円を緊急の目標としていますので、引き続きご協力をお願いいたします。

来年末にはGENの活動をスタートしてまる20年となります。活動を支えていただいたのは、みなさんからの会費、寄付金、助成金などです。ながくお付き合いいただき、心から感謝いたします。

ながいあいだには支援者のみなさんにもそれぞれのご事情の変化もあります。新たな支援の広がりがぜひ必要です。新規に会員になっていただける方、寄付をしてくださる方、また知人を紹介していただける方など、大歓迎です。

ひきつづきの応援をよろしく願いいたします。

なお、作業の都合で郵便振替払込表を一律に同封いたしますが、近々にご協力いただいた方への重ねてのお願いではありませんのでご了解ください。

* * * * *

ご協力項目

○会員になってください。（金額は年会費1口）

一般会員 12,000円

家族会員 6,000円（家族で2人目から）

学生会員 3,000円（高校生以上）

ジュニア会員 1,000円（中学生以下）

団体会員 12,000円

賛助会員 100,000円

○新拠点建設寄付 1口2,000円

○みみずく基金 1口10,000円 以下

のプロジェクトの運営に使用しますので指定してください。B. 南天門自然植物園 C. 白登苗圃 D. かけはしの森 E. カササギの森 おまかせの場合は必要に応じて配分します。

○緑化基金 金額はいくらでも結構です。

○運営カンパ 同上

新拠点建設寄付、みみずく基金、緑化基金の20%は管理費となります。

* * * * *

GENは認定NPO法人です。GENへ

いますぐできる GEN への協力

■年賀状に、絵はがき『黄土高原の花』ご利用ください

黄土高原の色あざやかな花ばなを年始のご挨拶にいかがですか。

絵はがき『黄土高原の花』8枚組・300円（送料別途。5セット以上送料サービス）

絵はがき『中国・黄土高原』撮影：橋本紘二 春／夏／秋／冬／緑化 各8枚組・300円（送料別途。5セット以上送料サービス）継続販売中です。

■ビデオ『よみがえる森』ご購入を！

沙漠化、水不足など黄土高原の環境問題とGENの緑化協力を30分にまとめました。価格は5,000円、GEN会員価格は4,000円（送料別途）です。教材にも好適。小学校高学年から。

■古切手を集めています

普通切手、記念切手、外国切手な

の寄付金（新拠点建設寄付、みみずく基金、緑化基金、運営カンパ）と会費のうち1口をこえる部分、賛助会費から12,000円をひいた額は寄付金控除の対象となります。個人の場合は「寄付金額－2,000円」を所得金額から控除することができます。法人の場合は損金に参入することができます。相続・遺贈による寄付は相続税の課税対象から除かれます。

んでもOK。周囲を1cmほど残して切り取ってお送りください。未使用切手も大歓迎です。

■書き損じはがきを集めています

書き損じはがき、古い未使用のはがきを回収しています。通信費にあてています。

■外国コイン・商品券などを集めています

使うあてのない図書券、文具券、各種商品券、外国コインがありましたらお送りください。

■ボランティア募集

会報発送や事務所の手伝いなどのボランティアを随時募集しています。ボランティア可能な曜日、時間帯をご連絡ください。来ていただきたいときにGEN事務所から連絡します。

✓自然トイレ、枯れた川、と昔と変わらない状況の中、高級車、テレビ、ファッション、音楽と都市部の影響が大きくなっている村。

4) 階級社会の力

先導され、反対車線を走るバスに対して、文句もいわない、渋滞で何日も足止めされているトラック運転手。道路や古城壁を作るために破壊される住宅や閉鎖される道路にも平然と生活を

つづける市民。確かに、日本では数年かかる事業が数カ月で終わりますが？

各村に作られた、不似合いな公園とバスケットリンク。

5) ワーキングツアーメンバー

諸先輩方の体力・知力・酒力のすべてに完敗です！日本帰国後、すべて鍛えなおします。（花田博文）

助成が決まりました

（社）国土緑化推進機構・緑の募金中央事業として「太行山・郷土の森造成事業」550万円が決まりました。



カササギの森に成長追跡調査地を設置しました

永野 正弘（関西大学非常勤講師）

8月30日～9月7日の日程で、専門家派遣を実施しました。今回は17名の参加で、現地ではGEN顧問の小川眞さんを中心とした「キノコ班」と、同じくGEN顧問の前中久行さんを中心とした「植物班」で一部別行動をとりながら、前回までにしこんだ実験結果をあつめたり、あらたな実験をはじめたりと興味深い活動をおこないました。今号では、馴染みのある方も多いカササギの森での植物班の活動についてのレポートをご紹介します。次回カササギの森を訪れた際には、「ここで調査してるんだな」と眺めてみてください。

◆目的と方法

カササギの森では2002年春から樹木の植栽が始まり、当初の植樹計画はほぼ完了しました。最初の年に植えられた樹木は、大きいものではその高さは2m50cmを超えています。

これらの樹木の成長の経過を記録し、今後の植樹やこの林の管理方法を検討する際の基礎資料を得ることなどを目的に5つの調査区を設置しました。管理棟の正面にあるモンゴリマツ植栽地の中に4つの調査区（P1～P4）と、采涼山から管理棟に来る道の管理棟直前にあるアブラマツとナラが混植された場所に1つの調査区を設定しました。どの調査区も南向きの緩い（傾斜4%程度の）斜面にあります。

P1～P4は、列植されたモンゴリマツの列35mを4列ずつ含むように設定しました（図1）。列はP1とP3では間隔が広く4mを超えるものもありますが、P2とP4では3mより狭いところがあります。アブラマツとナラの混植地でも同じように35m長4列（アブラ

マツの列、ナラの列、アブラマツの列、ナラの列）を調査区としました。この調査区は先にナラの列をおよそ3.5m間隔に植えてあったところにナラの列の間にアブラマツを列植したので列の間隔が約1.8mになっています。

これら調査区の中に生育しているマツとナラのすべての個体の枝に、個体識別用の番号を書いた白いプラスチックの札をくくりつけました。この調査対象樹木のそれぞれについて、それが所属する列番号と列内の位置を測定し、記録しました。なお、列と列の隔たりも測定しました。そのデータを使えば樹木相互の位置関係がわかることになります。

P1～P4のモンゴリマツの調査区では樹高と、樹高の割の高さでの幹直径を測定しました。樹高を測定するとその割の高さがわかります。幹のその高さでの直径をノギスカスチール巻き尺で測定します。幹直径が4.5cmより細い場合にはノギスで直角に交わる2方向を測定し、その平均を直径としました。太い場合にはスチール巻き尺で測定した幹周から直径を計算しました。

またこの4調査区では10本に1本の割で過去の高さを推定しました。マ

ツの仲間は、ふつう1年に1回、幹や枝の先端に、翌年伸びる主軸や枝の芽をつけます。ですから、幹にそって上から下へ枝分かれ点をたどると、前年の幹先端、一昨年の幹先端、といった具合に、過去の幹先端の高さがわかることになります。同じように過去の枝の広がり（枝張り）も推定可能ですが、これは測定していません。

アブラマツとナラの混植地では樹高と枝張りを測定しました。ここのナラの生育は芳しくなく、アブラマツは植え付けからまだ日が浅いので、どちらも主幹と呼べるものがはっきりしない個体が多いためです。

◆調査結果

ここでは調査を開始したときの樹木の状況を述べておきます。成長などについては今後の調査にご期待あれ。

どの列も調査区として35mに設定し

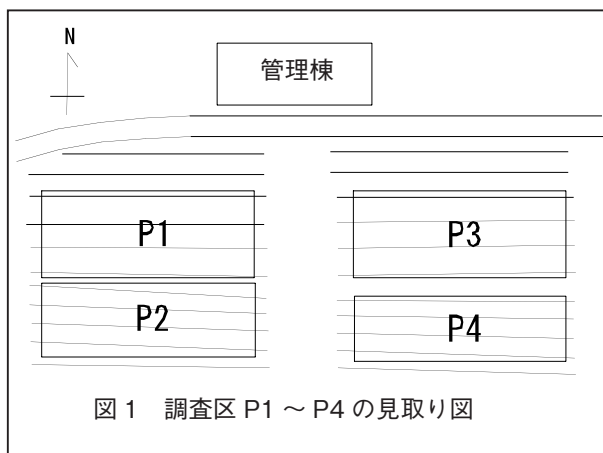


図1 調査区 P1～P4 の見取り図



モンゴリマツの大きいものは2.5mを超える

調査区	種類	本数	列数
P1	モンゴリマツ	138本	4列
P2	モンゴリマツ	134本	4列
P3	モンゴリマツ	106本	4列
P4	モンゴリマツ	136本	4列
混植区	アブラマツ	47本	2列
	ナラ	43本	2列

表1 調査区の概要

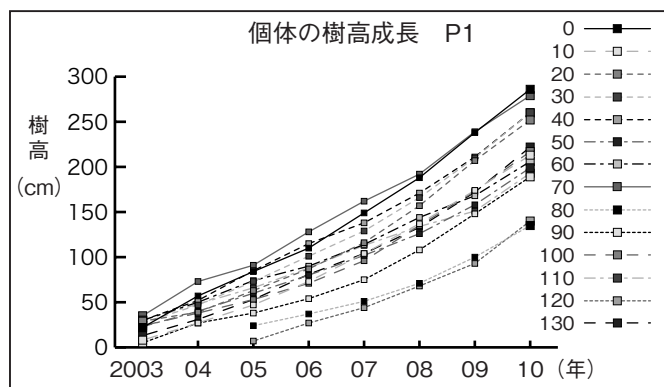


図2 個体の、枝分かれ点から推定した過去の樹高
(凡例の数字は個体番号)

ました。P1～P4では延べ延長140mの中に上の表にある本数のモンゴリマツが生育しています。平均的には約1mに1本生えていることになりませんが、既に枯れてしまったために木と木の間が5mほどもあいているものや、2本がごくそばに植えられていて間隔が10cm程度の場合もあります。でも、多くの場合、間隔はほぼ1mです。

P1～P4の樹木の状態を、今回の調

査で得られたデータを用いて紹介します。まず、枝分かれの高さから過去の樹高を推定したデータから見ていきます。図2はP1の14個体の樹高成長の経過を示しています。ほとんどどの個体も下に凸の曲線状となっています。すなわち、近年ほど1年で伸びる長さが長いことを表しています。そのことを確かめるために1年に伸びた量を縦軸に直接示してみました(図3)。1個体の中でも年々の値がばらつきまじ、同じ年でも個体間のばらつきが大きいのですが、全体としては1年に伸びた量が徐々に大きくなってきているのがわかります。試みに西暦年ごとに調査個体の1年の

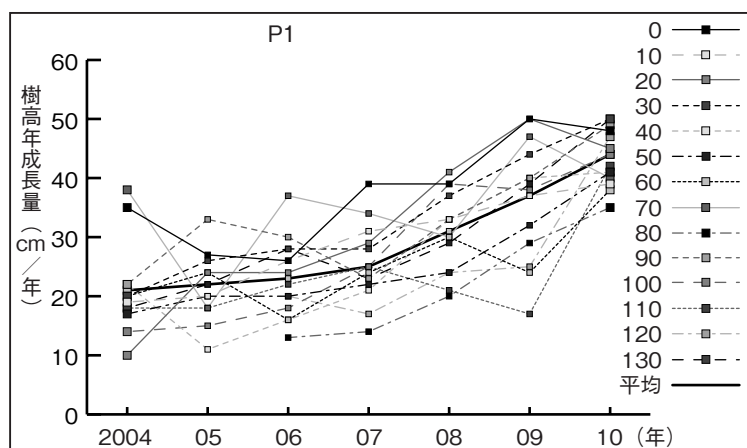


図3 個体の、1年ごとの樹高の伸び(凡例の数字は個体番号)

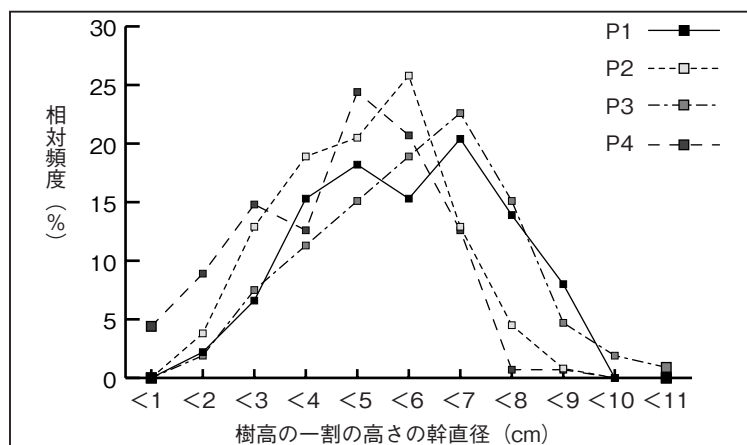


図4 P1～P4の幹直径の頻度分布

試みに西暦年ごとに調査個体の1年の

伸長量の平均をとってみると破折線で示した折れ線になりました。2004年には20cm/年ほどでしたが2010年には40cm/年以上の伸びとなっています。確かに、年々伸びの量が増加してきたことがわかります。

次に調査区と調査区の間には違いがあるかどうかということ、調査区内部で個体がどの程度不均質

であるかということについて検討します。

調査区ごとに、幹直径(樹高の位置一割の高さでの幹の太さ)の頻度分布を調べました。幹直径が1cm未満の個体数、1cm以上で2cm未満の個体数、以下同様に1cmごとの階級に区分される個体数を調査区ごとに数えました。その階級ごとの個体数を調査区の全個体数で割り算したものを相対頻度と呼ぶことにします。これを縦軸に、幹直径を横軸にして示したのが図4です。

全体を見ますと5cm以上6cm未満の階級の周辺に集中していることがわかります。調査区相互に見比べるとP1とP3は6cm以上7cm未満の階級に20%あまりの個体が含まれるピークがありますが、P2とP4ではそれより下の階級にピークがあります。折れ線全体もP1とP3はよく似た変化を示し、P2とP4もよく似ています。つまりP1とP3はP2とP4よりも大きい個体が多いことがわかります。植え付けた時期が同じですので土地の条件に違いがあるのではないかと思います(ただし、P4には途中で枯れた個体があった場所に植え直した若い個体が含まれているようで、特に2cm未満の小さい個体が多いのはそのため)。

次に直径と樹高の関係を示します(図5)。

データを示す点は直線状に並んでいることがわかります。おおむね原点と幹直径8cmで樹高が250cmの点を結ぶ直線の周囲に点が分布しています。すなわち、幹直径と樹高はほぼ比例し、どの個体も(少しの誤差を認めるならば)樹高は幹直径のおよそ30倍だということになります。

自然にできあがった森林や草本の群落では、多くの場合、このような比例関係にはならないで上に凸の曲線になり、幹直径が大きくなっても樹高があまり大きくならないで、ある一定値に漸近するような変化を示します。植物は光のエネルギーを吸収して水と二酸

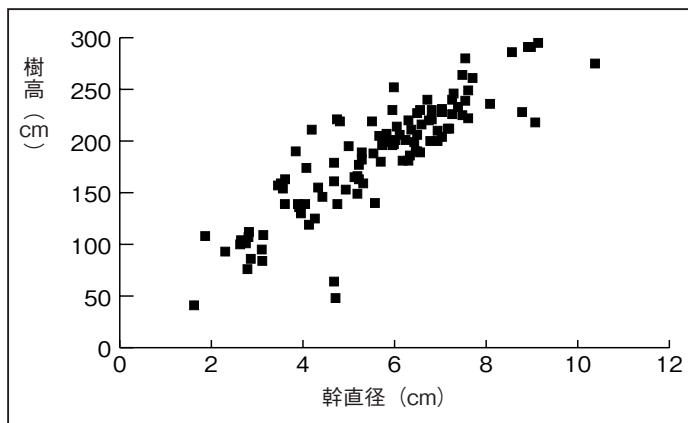


図5 樹高の一割の高さでの幹直径と樹高の関係 (P3)

化炭素からブドウ糖を合成し、それに固定された光のエネルギーを利用して、またブドウ糖を原料として（さらに根から吸収したミネラルも使って）有機物を作り、自らの体を形作ります。植物の個体が密集して互いに陰を作るような環境では、背丈が高くほかの個体より上空を占めて、太陽光をたくさん

浴びることは植物の個体にとってとても大切なことです。暗い環境で生きている植物個体では、ホルモンの体内での分布が変わり、光合成で得られたエネルギーと有機物を、幹を太らせることより背丈を伸ばす方に振り向けます。その結果、暗い環境にある個体（すなわち背が低い個体）は、幹があまり太らないのに樹高が高くなり、ひょろ長い樹形になります。林の高さが20mをこえる、ある日本の照葉樹林では幹直径が15cmで樹高が15mぐらいになります。P1～P4では樹高は幹直径の30倍ほどですが、

この照葉樹林の暗い環境に生活している樹木では100倍の樹高を持っています。折れたり倒れたりしないで、ぎりぎり立ってられる樹形です。

P1～P4の幹直径と樹高の関係は、わずかに上に凸ではありますが、ほぼ比例関係にあります。幹の太さの割に木は低く、ずんぐり（どっしり）した樹形となっています。長々と説明しましたが、「幹直径と樹高が比例関係にある」ということは、まだ個体と個体が陰を作りあうことがなく（干渉することがなく）成長してきたことを物語ります。列と列の間隔はまだ十分広いですが、列の隣の個体とは枝を接するようになってきています。そろそろ何らかの影響を互いに及ぼし始めているように思えます。これからどのような変化を示すのでしょうか？興味を持って見ていきたいと思います。

GEN 自然と親しむ会

無煙炭化器で炭を作ってみよう in せせらぎ広場

7月に実施して好評だった無煙炭化器での炭焼き、「寒くなってからまたしたいね」の声におこたえて、場所を少し変えておこないます。副産物の焼き芋がいっそう楽しみです。

「日本の里百選」に選ばれた黒川地区のハイキングもかねて、秋の1日をのんびり過ごしませんか。集合場所からせせらぎ広場まで、1時間ほど歩きます。

- 日時：11月20日（土）10時～15時ぐらいまで
- 雨天の場合は、21日（日）に延期
- 場所：川西市一庫ダムの国崎せせらぎ広場
- 集合：能勢電鉄「妙見口」駅前に10時
- 参加費：200円（保険料をふくむ）
- 持ちもの：作業のできる服装、軍手、弁当、飲みもの、敷物、イモ類（焼き芋に挑戦）
- 申込み：11月18日までにGEN事務所まで

緑の地球ネットワーク報告会

大同・緑化協力最前線

大同でGENがおこなっている緑化協力の特徴のひとつは、多くの専門家が参加してくださることです。94年から、折りをみては専門家による調査を実施してきましたが、JICAの事業委託をうけてここ数年は継続して専門家派遣をおこなっています。回数を重ねるにつれて、いろいろと興味深いこともわかってきました。

そんな最新情報を、GEN顧問の2人の専門家に報告していただきます。

- 日時：11月29日（月）18時30分～20時30分
- 場所：大阪市立総合生涯学習センター第1研修室（大阪駅前第2ビル5階）
- 参加費：700円
- 講師：小川眞さん（白砂青松再生の会会長）
前中久行さん（元大阪府立大学大学院教授）
- 問合せ：GEN事務所まで
- 事前申込み不要

GEN 自然と親しむ会

有機農業見学会

持続可能な暮らし方に向けて

有機農業をいとなむ農家を見学した後、本野さんに有機農業事情を話していただきます。

- 日時：2011年1月23日（日）10時30分～15時ぐらい
- 集合：神戸市営地下鉄「伊川谷」駅
- 案内：本野一郎さん（NPO法人兵庫県有機農業研究会理事長）
- 参加費：200円

電子データでの送付開始！

GEN会員または会報購読者で希望する方に、会報の電子データでの送付を開始します。ご希望の方は、お名前と送付先アドレスを明記してGEN事務所までeメールでご連絡ください。

おことわり

立花吉茂代表による連載「植物屋のこぼれ話（続編）」はしばらく休載いたします。

黄土高原史話〈52〉

北魏の初代道武帝

GENの黄土高原ツアーで緑化の作業とセットになっているのが、大同雲崗石窟の見学。いかに世界遺産とはいえ、リピーターには「毎度おなじみの」では、いささかもって…。

それはともかく、平城（大同）を北魏の都とした拓跋珪道武帝は、歴史に残る名君の一人。ただ彼の行なった大改革は、祖父什翼犍の施策をモデルに、その方向を徹底したところにあった、かと。

その第一は根拠地づくり。前回述べたごとく、什翼犍は338年、漢の成楽故城の南8里に壮大な規模の盛楽新城を造営。人を移し、野を拓いた。これに対し拓跋珪は398年、すでに漢の平城の南100里にできていた新平城の地に、中国モデルの首都を建設。考古学的には未確認ながら、文献には「始めて宮室を営み、宗廟を建て、社稷を立つ」（『魏書』太祖記）と。つまり、陰山南麓の盛楽（内モンゴル自治区ホリンゴール県）から平城（山西省大同市）へと、北西から南東へ移動して、中国の中央部＝中原をうかがう姿勢を鮮明に。みずから帝号も称します。

経済的には、祖父の時代の半農半牧から主農副牧へと比重を移す。戸籍を整えて農地を与える「計口授田」の政策は、道武帝の実施による。

三つ目は政治体制。什翼犍は若いこ

谷口 義介（摂南大学教授）

ろ、華北を制圧していた後趙の都（河南省鄴）で人質に。兄の死で帰国を許されるや、鄴時代の見聞を生かし、中国式の官僚制と法律を導入、また漢人も活用し、従来の部族連合体制からの脱皮を図る。いっぽう道武帝は、諸部族を畿内・外に集住させ、同時に、これまで諸部族長がもっていた権限を国家のもとに吸収した。漢人士大夫も積極的に登用し、北魏の国づくりに協力させる。

かくみると、道武帝は祖父の敷いた路線をひた走ったといえますが、東のかた後燕を滅ぼして有力者と技術者を平城に集めたり、西方を伐って東西交易のルートを開くなど、北魏富強の基礎をきづいた。

ところで雲崗石窟のうち、初期のいわゆる五窟の大仏群は、力みなぎる充実した体躯。仏像のイメージをはみ出して、勇猛な胡族の王者の風格あり。それもそのはず、五窟本尊は北魏の5帝がモデルといわれ、このうち最大の第19窟（写真）がほかならぬ道武帝。雄偉な体格、大きな顔、力強い表情は、北魏王朝の建国者たるにふさわしい。

ところがこの帝王、名君であると同時に稀代の暴君。ねちこい復讐心と狂気じみた猜疑心、残酷さ。本人的には被害妄想でしょうが、群臣のほうは戦々恐々、犠牲になったもの数知れず。「こ



んな皇帝、早く殺ってしまったらねば、こちらが危ない」という空気は宮廷内外にあったでしょう。

じつは帝の妃は、母の妹の賀夫人。すでに夫がいたのだが、たいそうな美人ゆえ、帝はその夫を殺して自分のものにした。生まれた男子が拓跋紹。夫人に何か落ち度あり、幽閉されたので、息子に救いを求めます。紹はこのとき16歳、手のつけられぬワルながら、母の身を案じて父の殺害を決意する。宦官や宮女と通謀し、皇帝の居所をうかがうや、「賊、至る！」と叫びます。驚いてとび出した道武帝をバツサリ、という次第。『魏書』太祖記には「帝、天安殿に崩ず、時に年三十九」とのみありますが、このあたり詳しくは『魏書』道武七王「清河王紹」の条を参照あれ。

2011 春の黄土高原ワーキングツアー予告

春のワーキングツアーはいつも霊丘県の南天門自然植物園でしたが、最近はいどい渋滞に悩まされることが多くなってきました。そこで来春は違う方面に行ってみようという計画です。まだ未確定の要素がありますが、日程は変わりませんので、参加ご希望の方はスケジュールをあけておいてください。

●日程：2011年4月9日（土）～15日（金）6泊7日

●費用（予定。変更する場合があります）：135,000円（国際航空運賃、中国国内の交通費／食費／宿泊費を含む。

GEN年会費〈一般＝12,000円、学生＝3,000円〉、燃油特

別付加運賃、空港使用料、旅券取得費用、個人でかける旅行保険料、個人行動時の費用は含まない）※中国国際航空利用予定 ※関西空港発着 ※成田便利用希望の方は航空運賃差額〈実費〉が別途必要です。

●定員：35名（定員に達し次第締め切ります）

●最少催行人数：12人

★参加ご希望の方は、まずGEN事務所までご連絡ください。申込書類の準備ができましたら、（株）マイチケットからお送りします。12月後半以降になる見込みです。

情報ひろば いっしょなかたち

中国の森林政策と緑化協力を考える 日中国際シンポジウム

中国から森林政策の専門家を招き、変容しつつある中国の森林政策を見据えながら、主として中国の乾燥地における日本としての緑化協力のあり方を考えます。II 部には GEN の高見事務局長も参加します。

- 日時：12 月 23 日（木・祝日）9 時～17 時 30 分
- 場所：龍谷大学ともいき荘 2 階研修室（京都市上京区室町通下長者町下る tel.075-366-5303）
- 主催：鳥取大学乾燥地研究センター
- 共催：龍谷大学、拓殖大学
- 協力：NPO 法人環境保全ネットワーク京都

【内容】

- I 部 中国の森林法政策と環境保全
9:30-14:20（昼休みあり・逐次通訳）
中国林業局、日本の研究者などの報告・質疑
- II 部 植樹協力からみた中国の森林
14:45-17:30 日本の NGO の報告・パネルディスカッション
- 参加申込み＆問合せ：龍谷大学法学部 北川研究室（〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町 67 fax. 075-643-8510 e-mail: kita-ken@

*当欄掲載のイベント情報は掲載時点のもので、その後変更になる可能性があります。主催者にお確かめのうえ、ご参加ください。
*当欄に情報をお寄せください。本紙は奇数月 15 日ごろの発行で、締切は前月の末です。なお、紙面の都合により掲載できない場合があります。ご了承ください。

law.ryukoku.ac.jp)
氏名、所属、住所、電話番号、メールアドレスを明記してお申し込みください。

お歳暮 お正月に 甲浦ポンカンをどうぞ！

★甲浦ポンカン（低農薬・動物性有機肥料のみ使用）

【歳暮・贈答用化粧箱入り】

A	2L/3L	5kg	30 個前後	4,000 円
B	2L/3L	3kg	20 〃	2,600 円
C	L	5kg	35 〃	3,500 円

【普通箱入り】

D	2L/3L	5kg	30 〃	3,700 円
E	2L/3L	3kg	20 〃	2,300 円
F	L	5kg	35 〃	3,200 円

【家庭用。出荷は 12 月 20 日から】

G	5kg	33 〃	2,600 円
ゆず酢	4 合瓶 2 本入り		4,000 円

※出荷：12 月 7 日～2 月下旬

※送料別途。20kg まで関西 630 円、関東・甲信越 840 円。

★ご注文は

〒781-7412 高知県安芸郡東洋町河内 203 田中農園 田中隆一さん（tel/fax 0887-29-2500 e-mail:tanakan@quolia.ne.jp）

※売り上げの一部を GEN に寄付して

いただいています。ご注文の際は一言「GEN の紹介」と添えてください。

編集後記

本をつくる仕事にあこがれたことがありました。表紙は写真にしようか、絵がいいか、誰の絵がいいか、題字は活字か手書きか、見返しの紙の質は、色は……。丁寧につくられた単行本はそれ自体が一個の作品です。造本にひかれて買った本も何冊か手元にあります。あるいは、読み古した文庫本でも、クッキーのかけらをこぼした油の染みとか、しおりがなくてページの角を折り曲げた跡とかに、以前読んだ時のことを思い出すこともできます。

増殖する本に生活空間をおびやかされている身としては電子書籍にもひかれるところはあるのですが、残念ながら電子書籍では手触りや思い出を楽しむことはできません。

最近一部の読書家のあいだで「自炊」が流行っているそうです。なかには買ったばかりで開いてもいない単行本を断裁して、ページに手もふれずにスキャンしてデータにしてしまうと本体はゴミ箱へ、という人もいますとか。

そんなニュースに心がいたむ私は、紙のページを手でめくる、昔ながらの読書を楽しむことにします。（東川）